

取り扱い

本製品の基本的な取り扱いについて説明しています。

電源の入れ方／切り方	2
ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウス	9
音量	20
画面の明るさ	21
HDMI 機器	22
光学ドライブ	26
メモリーカード	40
周辺機器の取り扱い	44
メモリ	46
お手入れ	53

電源の入れ方／切り方

パソコンを使い始めるときや作業を終了するとき、状況によりいくつかの方法があります。

状況	参照先
「Windows を終了する」の手順で終了したあとに利用するとき	Windows をスタートする
普段パソコンを使い終わったあと	スリープにする
普段パソコンを使い始めるとき	スリープから復帰する
パソコンの操作が遅くなったり、正常に動作しなくなったとき しばらくパソコンを使う予定がないとき	Windows を終了する
お手入れやメモリの増設などパソコン本体に触れるとき	パソコンの電源を完全に切る

Windows をスタートする



注意



一般禁止

落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後 AC アダプタや電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による感電、火災の原因となります。

雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。



一般禁止

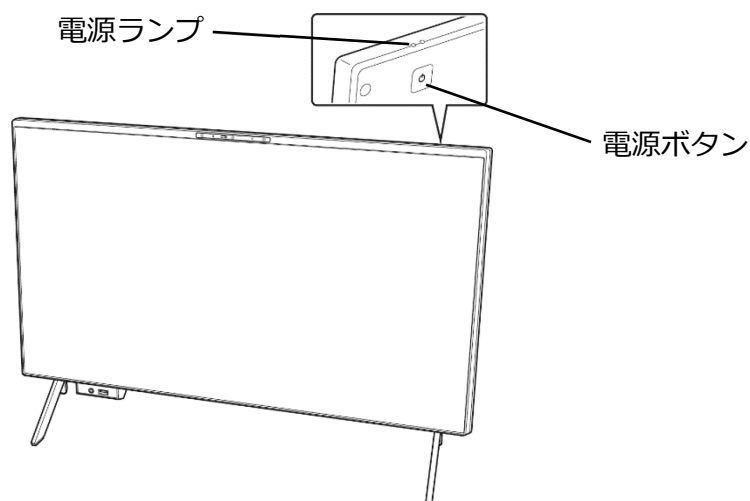
電源を入れた状態で移動させたり、衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。

重要

- ▶ ケーブル類が正しく接続されているか確認してください。
- ▶ 電源を切った後は、次に電源を入れ直すまで 10 秒ほどお待ちください。
- ▶ パソコンに布などのカバーをかけている場合は、必ずそれらを完全に取り外してから電源を入れてください。パソコンの通風孔などが布などでふさがれたまま使用すると、パソコン内部に熱がこもり、動作不良、故障、または破損の原因になることがあります。
- ▶ 電源を入れた後は、Windows がスタートするまで電源を切らないでください。途中で電源を切ると、パソコンの動作が不安定になります。
- ▶ 電源を入れてから Windows がスタートするまでは、キーボードやマウスなどで操作しないでください。正常にスタートできない場合があります。

- 1 パソコンに接続されている機器の電源を入れます。
- 2 電源プラグがコンセントに接続されていない場合は、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- 3 パソコン本体の電源ボタンを押します。

電源ボタンを 10 秒以上押すとパソコンの電源が強制的に切れてしまいます。データが失われる場合もありますので、ご注意ください。



電源ランプが点灯し、ロック画面が表示されます。

- 4 **Enter** を押します。

パスワードや PIN を設定している場合は、パスワードや PIN を入力します。

Windows がスタートします。

Point

- ▶ キーボードのパソコン電源ボタンを押すことで、パソコン本体の電源を入れることができます。
- ▶ Windows がスタートしない場合は、 『取扱説明書 <スタートガイド>』の「起動・終了時のトラブル」をご覧ください。

スリープにする

パソコンを使い終わったときは、スリープという状態にしておくことで、次に使うときにすぐに使い始められます。

モダンスタンバイという機能に対応しているパソコンでは、対応しているアプリを使うことで、スリープ中に音楽を再生し続けたり、メールを受信したりすることもできます。また、通常のスリープよりも早く起動するので、すぐに使い始めることができます。

モダンスタンバイに対応しているか確認するには、『取扱説明書<スタートガイド>』の「仕様一覧」をご覧ください。

oint

- ▶ スリープ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。
- ▶ モダンスタンバイに対応していない機種の場合、ご購入時は、スリープしてから一定時間経過すると休止状態に移行するように設定されています。休止状態について、詳しくは「使いこなすために」－「スリープ／休止状態」をご覧ください。
- ▶ Web カメラを使用するアプリを起動中は、一定時間パソコンを操作しない場合に自動的にスリープや休止状態になる機能はご使用になれません。

1 パソコンの電源ボタンを押します。

ディスプレイの表示が消え、スリープになります。電源ランプは青色に点灯します。少し時間が経ち低電力状態になると、冷却ファンが停止します。

oint

- ▶  ▶ （電源）▶ 「スリープ」の順にクリックしてスリープすることもできます。

スリープから復帰する

1 パソコン本体の電源ボタンを押します。

電源ボタンは 10 秒以上押さないでください。パソコンの電源が強制的に切れてしまいます。

2 ロック画面が表示された場合は、次のように操作します。

1. を押します。

パスワードや PIN を設定している場合は、パスワードや PIN を入力します。

oint

- ▶ スリープにした後は、必ず 10 秒以上たってから復帰するようにしてください。
- ▶ 復帰させた後は、必ず 10 秒以上たってから、スリープにするようにしてください。
- ▶ 電源ボタンを押す以外の方法でスリープから復帰させると、Windows の仕様により、画面が表示されない場合があります。画面が表示されない場合は、キーボードやマウスなどから入力を行うと画面が表示されます。
- ▶ スリープから復帰後、画面が表示されないままの状態ですと一定時間経過すると、再度スリープになります。

Windows を終了する

次のようなときは、Windows を終了（シャットダウン）してください。

- パソコンを長期間使わないとき
- パソコンの操作が遅くなったり、正常に動作しなくなったりするとき

重要

- ▶ Windows を終了する前に、作業中のデータがある場合は保存してください。また、光学ドライブにディスクが入っている場合は取り出してください。
- ▶ 次のような場合は、「パソコンの電源を完全に切る」（→P.7）をご覧ください、電源を切ってください。
 - ・メモリを取り付ける／取り外す
 - ・AC アダプタや電源ケーブルを取り外す
 - ・BIOS セットアップを起動する
 - ・パソコン本体内部や通風孔のお手入れをする
- ▶ Windows がスタートして1分以上たってから終了するようにしてください。

1 （電源）▶ 「シャットダウン」の順にクリックします。

しばらくすると、Windows が終了します。

Point

- ▶ Windows が終了できないときは、 『取扱説明書＜スタートガイド＞』の「起動・終了時のトラブル」をご覧ください。
- ▶ 長期間パソコンを使用しない場合は、パソコンの電源を切ってから AC アダプタを取り外してください。
 - ・AC アダプタや電源ケーブルは、変形したり、割れたり、傷が付かないように保管してください。保管するときは、AC アダプタにケーブル類をきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけないでください。

2 パソコンに接続されている機器の電源を切ります。

パソコンの電源を完全に切る

日常的なパソコンの使用では、この方法で電源を切る必要はありません。

重要

- ▶ 次のような場合に、ここで説明している手順でパソコンの電源を切ってください。
 - ・ メモリを取り付ける／取り外す
 - ・ AC アダプタや電源ケーブルを取り外す
 - ・ パソコン本体内部や通風孔のお手入れをする
 - ・ BIOS セットアップを起動する
- ▶ Windows がスタートして 1 分以上たってから終了するようにしてください。

- 1  ▶  (設定) ▶ 「システム」 ▶ 「回復」の順にクリックします。
- 2 「PC の起動をカスタマイズする」の「今すぐ再起動」をクリックします。
- 3 「今すぐ再起動」をクリックします。
- 4 「オプション選択」画面が表示されたら、「PC の電源を切る」をクリックします。

電源ランプの状態

電源ランプは、パソコンの状態によって次のように動作します。

電源ランプの状態	パソコンの状態
白色に点灯	パソコンが使える状態
青色に点灯	スリープ（モダスタンバイ）
消灯	・休止状態 ・パソコンの電源が切れている

ワイヤレスキーボード／ワイヤレスマウス

ご購入時に添付されているワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスをお使いになるときの注意事項や、電池の交換方法について説明します。

使用に適した配置

このパソコンに添付されているキーボードやマウスは、無線でパソコンに信号を送ります。信号を受けるキーボード／マウスアンテナが、パソコン本体に搭載されています。

キーボードおよびマウスは、次のような場所でお使いください。

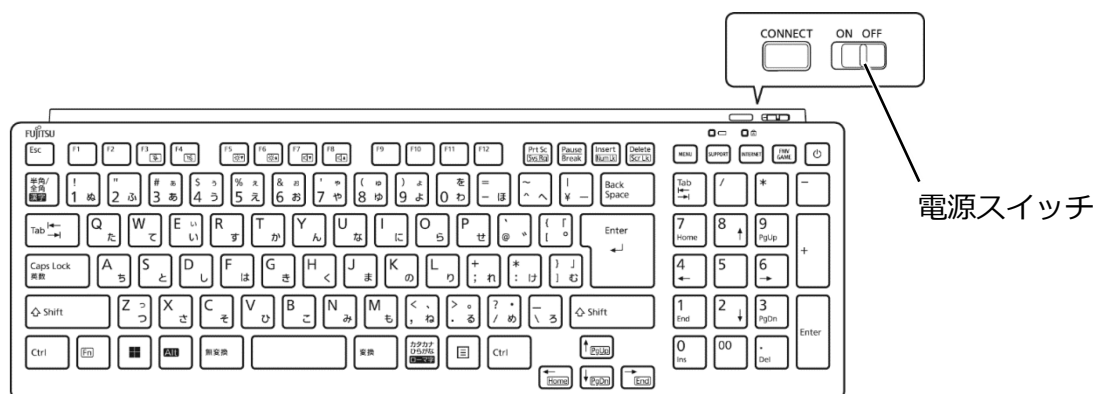
- 机の上など平らで安定した場所
- パソコン本体と同じくらいの高さで、操作に十分なスペースがとれる場所
- キーボード／マウスアンテナから 3m 以内、左右約 45 度の範囲
(ただし、設置環境により短くなる場合があります。)
- キーボードとマウスの外形寸法と質量は次のとおりです。
 - ・ キーボード
外形寸法 (W×D×H) : 約 385mm×約 129mm×約 24mm
質量 : 約 535g (電池含まず)
 - ・ マウス
外形寸法 (W×D×H) : 約 60mm×約 105mm×約 36mm
質量 : 約 59g (電池含まず)

ワイヤレスキーボード/ワイヤレスマウスをお使いになるうえでの注意

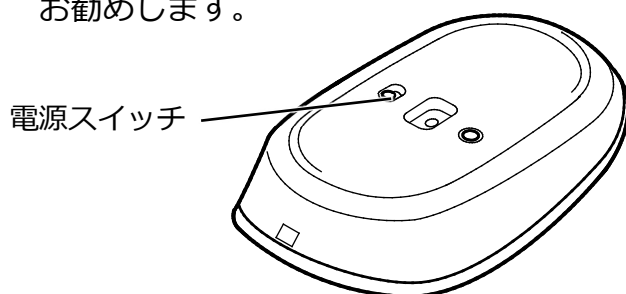
ご購入時に添付されているキーボードとマウスを使うときの注意事項について説明します。

- マウス底面から発せられている光は、目に悪い影響を与えることがあります。直接見ないようにしてください。
- マウス底面のセンサー部分を汚したり、傷を付けたりしないでください。
- マウス底面の発光部分を他の用途に使わないでください。
- 次のようなものの表面では正しく動作しない場合があります。
 - ・ 鏡やガラスなど反射しやすいもの
 - ・ 光沢のあるもの
 - ・ 濃淡のはっきりしたしま模様や柄のもの（木目調など）
 - ・ 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの
- このマウスは非接触でマウスの動きを検知しているため特にマウスパッドを必要としませんが、マウス本体は接触しているため、傷が付しやすい机やテーブルの上では、傷防止のためにマウスパッドなどを使うことをお勧めします。
- 次のような環境では、周囲からの電波を受けて、マウスがうまく動作しないことがあります。設置場所を変えるなど、通信の妨げとなる原因を取り除いてください。
 - ・ キーボードやマウスとキーボード／マウスアンテナとの距離が離れすぎている場合
 - ・ パソコン本体とキーボードやマウスとの間に、電気・電子機器や金属製のものを置いている場合
 - ・ パソコン本体をスチール机やスチール棚のような金属製の台の上に載せている場合
 - ・ 周囲でノイズ源となる電気・電子機器（無線機器を含む）を使用している場合
 - ・ パソコン本体周辺に金属製の物（スチール製の机、金属部分がある机）がある場合
 - ・ 周囲にこのパソコンと同じ周波数の電波を使用している機器がある場合（パソコンを複数台でお使いの場合や、周囲でラジコンや無線機をお使いの場合、または無線局の近隣でお使いの場合など）
 - ・ パソコン本体を電子レンジの近くに置いている場合
 - ・ ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスを使用したパソコンを近くで使用している場合
- キーボードは、電池の消耗を抑えるため、キーを押さない状態が数秒続くと、スリープモードに入ります。スリープモードから復帰するとき、最初に押したキーが無効になることがあります。これは故障ではありません。もう一度、最初に押したキーを押してください。
- 電池の消耗を抑えるため、マウスを動かさない状態が約 20 秒続くと、スリープモードに入ります。
- 1.5V のアルカリ乾電池をお使いください。
マンガン乾電池などは、お使いにならないでください。十分な機能・性能で動作しない場合があります。また故障の原因となる場合があります。

- ご購入時に添付されている乾電池は初期動作確認用です。
すぐに寿命に達する場合がありますので、お早めに新しい電池に交換してください。
キーボードに新しい電池を使用した場合、電池の寿命の目安は、1日3.5時間の使用で約6ヶ月です。
マウスに新しい電池を使用した場合、電池の寿命の目安は、1日3.5時間の使用で約6ヶ月です。
ただし、使用状況によっては、この期間に満たないで寿命に達する場合があります。電池の寿命は、お使いの状況によって大幅に変わります。
- パソコンを操作していないときは、なるべく動かさないようにしてください。
パソコン本体の電源が入っていなくても、キーボードやマウスが動作していると電池が消費されます。また、キーボードやマウスの上に物を載せたままにしないようにご注意ください。
- 長期間使用しないときは、電池を取り出してください。
キーボードやマウスは、使用せずに放置していても、電池は消耗します。長期間使用しないときは、電池を取り出してください。
- 電池の消耗を抑えるためには
 - ・ キーボードを使用しないときは、電源スイッチを OFF 側にして電源を切っておくことをお勧めします。

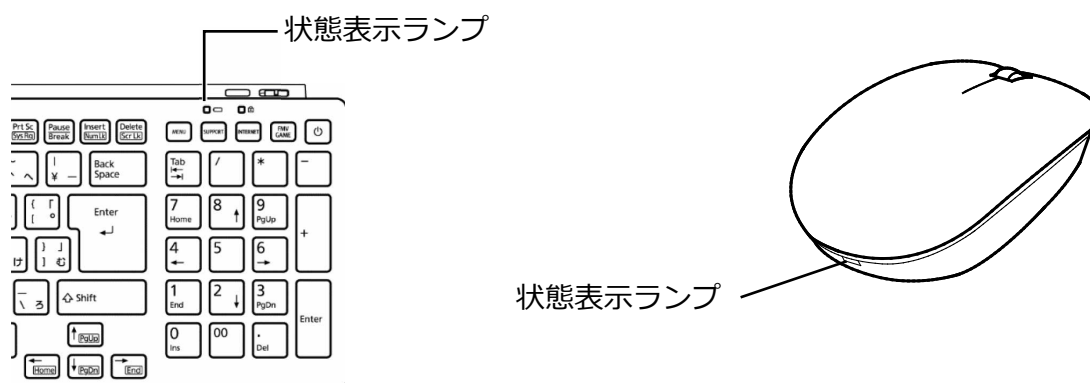


- ・ マウスを使用しないときは、電源スイッチを OFF 側にして電源を切っておくことをお勧めします。



- 電池の消耗状態は、状態表示ランプをご覧ください。消耗している場合は、新しい電池に交換してください（表示は目安です）。

電池が消耗している場合は、状態表示ランプが赤色に点滅します。



● 24DS1

上記表示の 2.4GHz 帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。変調方式として DS-SS 変調方式を採用しており、与干渉距離は 10m です。

この機器の使用周波数は 2.4GHz 帯です。この周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

- ・ この機器を使用する前に、近くに医療機関や工場がないことを確認してください。
- ・ 万一、この機器と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかにこの機器の使用チャンネルを変更するか、使用場所を変えるか、または機器の運用を停止してください。
- ・ 航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。
- ・ 不明な点、その他お困りのことが起きたときは、お買い求めの販売店または「富士通 パーソナル製品に関するお問い合わせ窓口」までお申しつけください。

マウスの使い方

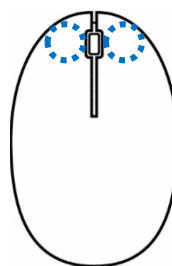
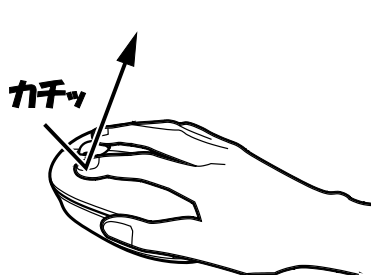
ここでは、ご購入時に添付されているマウスの使い方について説明します。

Point

- ▶ マウスの設定について
マウスの設定は次の手順で表示する設定画面で変更できます。ただし、設定項目によっては設定が反映されない場合があります。
- 1.  ▶  (設定) ▶ 「Bluetooth とデバイス」 ▶ 「マウス」の順にクリックします。
- ▶ スクロール機能や、ホイールを左右に倒したときの機能は、使用するアプリによって異なります。また、お使いになれないことがあります。
- ▶ スクロールホイールを押したときの機能は、使用するアプリによって異なります。また、お使いになれないことがあります。

■ クリック

左ボタンをカチッと 1 回押して、すぐ離すことです。また、右ボタンを 1 回カチッと押すことを「右クリック」といいます。

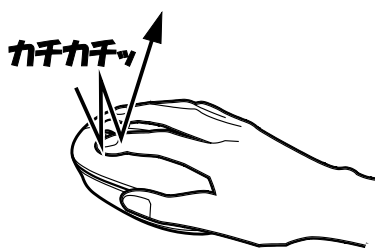


ボタンを押すときは、スクロールホイールの横あたりを押してください。

(これ以降のイラストは機種や状況により異なります)

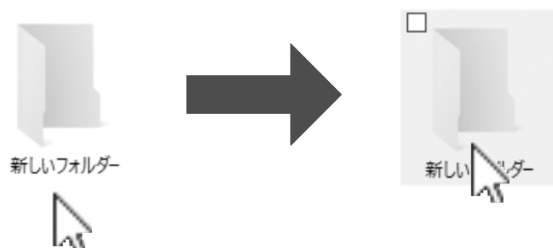
■ ダブルクリック

左ボタンをカチカチッと 2 回素早く押して、すぐ離すことです。



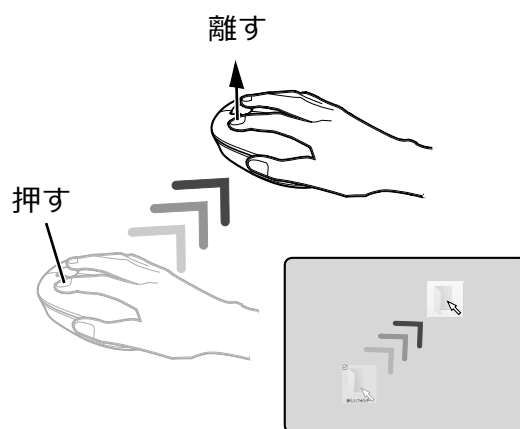
■ ポイント

マウスポインター () をアイコンやメニューなどに合わせることです。ポイントすると、項目が反転表示されたり、項目の説明が表示されたりします。



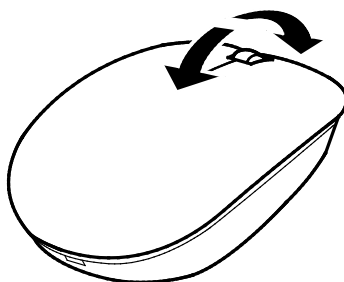
■ ドラッグ

アイコンやウィンドウを、マウスポインター（）で掴むようにして移動させることです。マウスポインター（）を任意の位置に移動し、左ボタンを押しながら希望の位置までマウスを移動し、指を離します。



■ スクロール

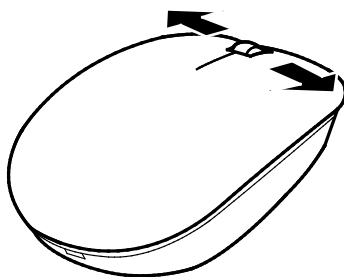
スクロールホイールを回して、画面の表示を動かすことです。



（イラストはお使いのマウスにより異なります）

■ スクロールホイールを左右に倒す

水平スクロール（左右にスクロール）することができます。



（イラストはお使いのマウスにより異なります）

電池を交換する

注意



一般禁止

電池ボックスに金属物を入れたり、落としたりしないでください。
故障の原因となることがあります。



一般指示

使い切って寿命のなくなった電池はすぐに取り出してください。電池の液もれなどの原因となることがあります。



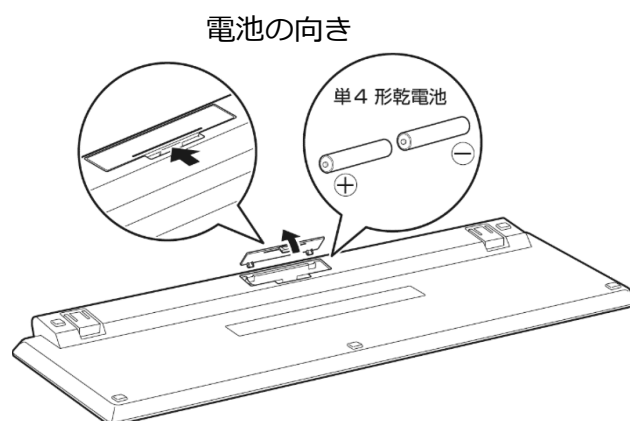
一般指示

使用済み乾電池を充電して使用しないでください。
液もれ、破裂の原因になります。

■ ワイヤレスキーボード

- 1 キーボードを裏返して電池ボックスのふたのツメを押しながら持ち上げて外し、電池を取り出した後、新しい電池を入れ、電池ボックスのふたのツメを押しながら閉めます。

電池を入れるときには、キーボードのキーを押さないように注意してください。正常に動作しなくなる場合があります。また、キーボードの電池ボックスのふたを無理に開け閉めすると破損する場合がありますのでご注意ください。



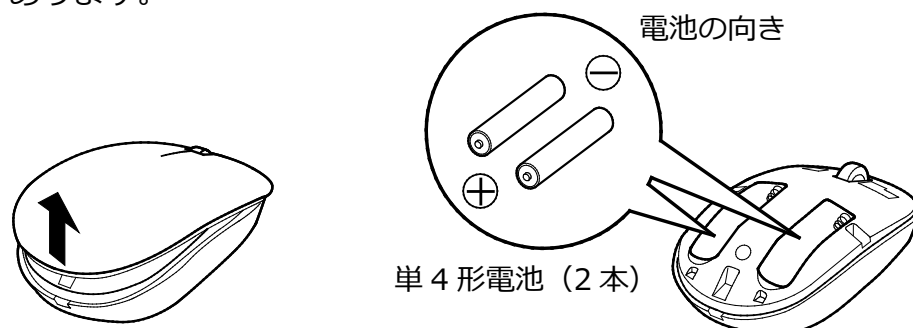
Point

- ▶ 電池が使用推奨期限を過ぎていないか、確認してお使いください。

■ ワイヤレスマウス

- 1 マウス上面を後方から持ち上げ、フタを外します。電池を取り出した後、新しい電池を入れます。

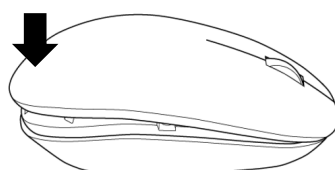
電池を入れるときには、マウスのボタンを押さないように注意してください。正常に動作しなくなる場合があります。



Point

- ▶ 電池が使用推奨期限を過ぎていないか、確認してお使いください。

- 2 フタの上から軽く押し、フタをはめ込みます。



キーボードやマウスをパソコンに再認識させる

通常お使いの場合は、キーボードやマウスをパソコンに一度認識させれば、再認識させる必要はありません。ただし、次のような場合は、キーボードやマウスを再度パソコンに認識させて、正常に動作するようにしてください。

- キーボードやマウスが正しく動作しない場合
 - 近くで使っているパソコンのキーボードやマウスにより、このパソコンが誤動作する場合
 - 2 台以上のパソコンを使用している場合
- ワイヤレスキーボードやワイヤレスマウスは、電波の混信や誤動作を避けるため、パソコンと 1 対 1 で設定する必要があります。

重要

- ▶ パソコンに再認識させるときの注意
 - ・ パソコンを設置している環境を確認してください。
 - ・ キーボードとマウスの両方とも再認識させてください。
 - ・ 再認識させるときは、キーボードやマウスをパソコンの画面中央下に置いてください。
- ▶ AC アダプタが正しく接続されていないときは、パソコンにキーボードやマウスを認識させることができません。AC アダプタがパソコンに接続されていること、および電源プラグがコンセントに接続されていることを確認してください。

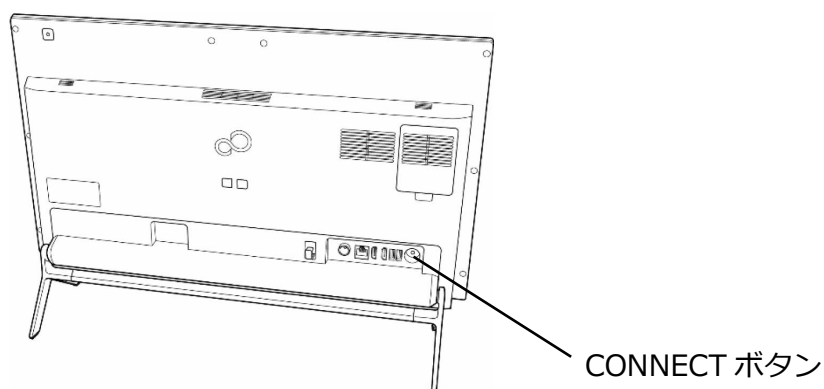
Point

- ▶ 電池の交換などで電池を取り出した場合は、キーボードやマウスがパソコンに認識された状態になっています。再認識させる必要はありません。

□ キーボードを再認識させる

1 パソコン本体の CONNECT ボタンを約 1 秒間押します。

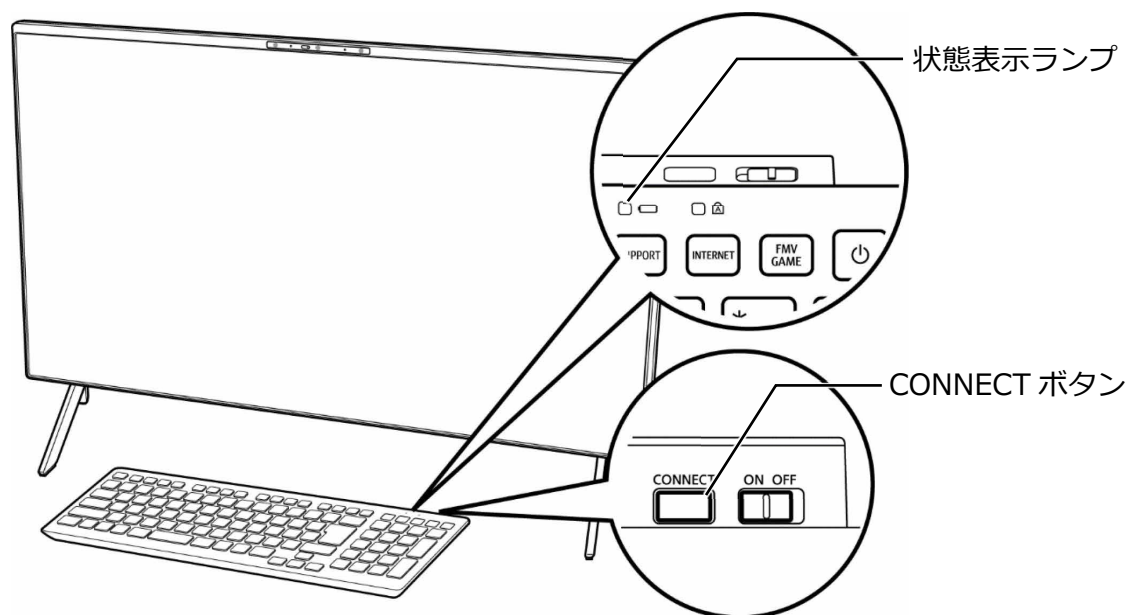
CONNECT ボタンを押すと「カチッ」という感触があります。「カチッ」という感触がない場合は、もう一度 CONNECT ボタンを押してください。



2 30 秒以内にキーボード背面の CONNECT ボタンを指で 1 回押し、すぐに離します。

その後、すぐにパソコンの画面中央下に置きます。

CONNECT ボタンを押すときは、キーボードのキーなどを押さないようにしてください。

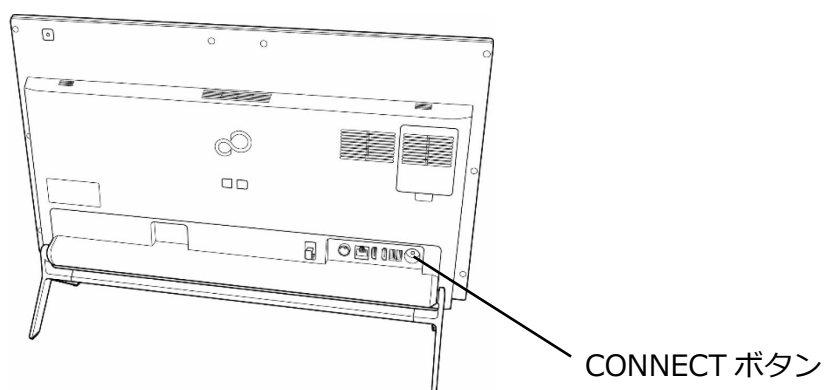


状態表示ランプが緑色の点滅から点灯に変わり、約 2 秒後に消灯します。点灯に変わらない場合は、いったん電池を出し入れし、もう一度手順 1 から操作してください。

□ マウスを再認識させる

1 パソコン本体の CONNECT ボタンを約 1 秒間押します。

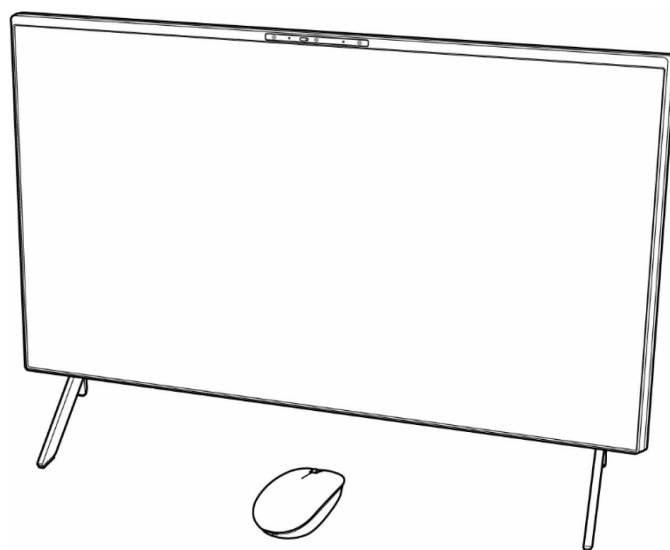
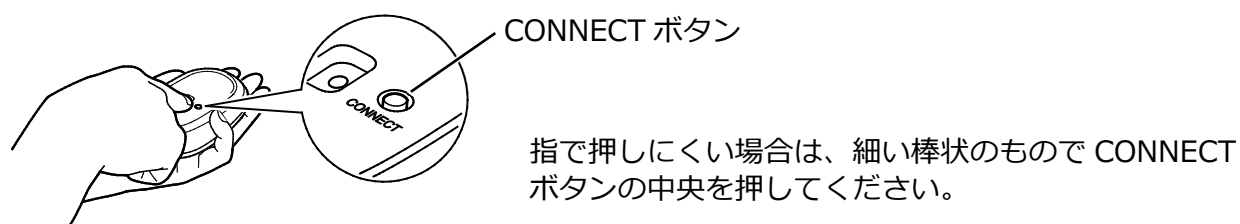
CONNECT ボタンを押すと「カチッ」という感触があります。「カチッ」という感触がない場合は、もう一度 CONNECT ボタンを押してください。



2 30 秒以内にマウス底面の CONNECT ボタンを指で 1 回押し、すぐに離します。

その後、すぐにパソコンの画面中央下に置きます。

CONNECT ボタンを押すときは、左ボタンなどマウスの他のボタンを押さないようにしてください。



状態表示ランプが緑色の点滅から点灯に変わり、約 2 秒後に消灯します。

点灯に変わらない場合は、いったん電池を出し入れし、もう一度手順 1 から操作してください。

音量

次の方法で音量を調節できます。

画面上で調節する

マウスを使って調整できます。

画面右下の  をクリックし、次のように操作します。

- 音量を調節する

スライダーを左右に動かします。

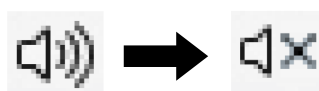


音量小 ←→ 音量大

(画面は機種や状況により異なります)

- 音を消す

スライダーの左にある  をクリックします。



もう一度クリックすると音が出るようになります。

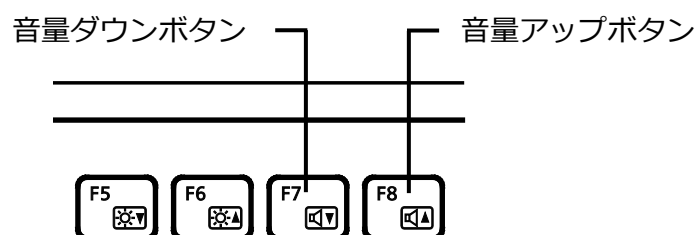
キーボードで調節する

- 音量を大きくする

[Fn] を押しながら、**[F8]** を押します。

- 音量を小さくする

[Fn] を押しながら、**[F7]** を押します。



- 音を消す

[Fn] を押しながら、**[F4]** を押します。

もう一度押すと、音が出るようになります。

マイクを ON/OFF する

[Fn] を押しながら、**[F3]** を押します。押すごとにマイクの ON と OFF が切り替わります。

画面の明るさ

パソコンの画面の明るさを調節できます。

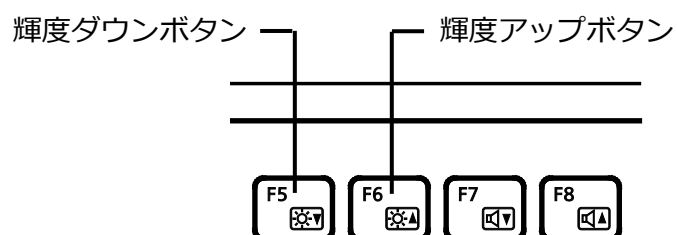
画面上で調節する

- 1 画面右下の  をクリックします。
- 2  をスライドさせて、明るさを調整します。



キーボードで調節する

[Fn] キーを押しながら **[F5]** (☀️▼) を押すと暗く、**[Fn]** キーを押しながら **[F6]** (☀️▲) を押すと明るくなります。



HDMI 機器

ゲーム機やビデオカメラなどを接続してパソコンの画面で楽しんだり、外部ディスプレイを接続して、パソコン本体ともう 1 つの画面にパソコンの画像を表示したりすることができます。

HDMI 出力端子と HDMI 入力端子

外部にパソコンの映像を出力する「HDMI 出力端子」と、外部の機器から映像を入力する「HDMI 入力端子」があります。

HDMI 出力端子を使う

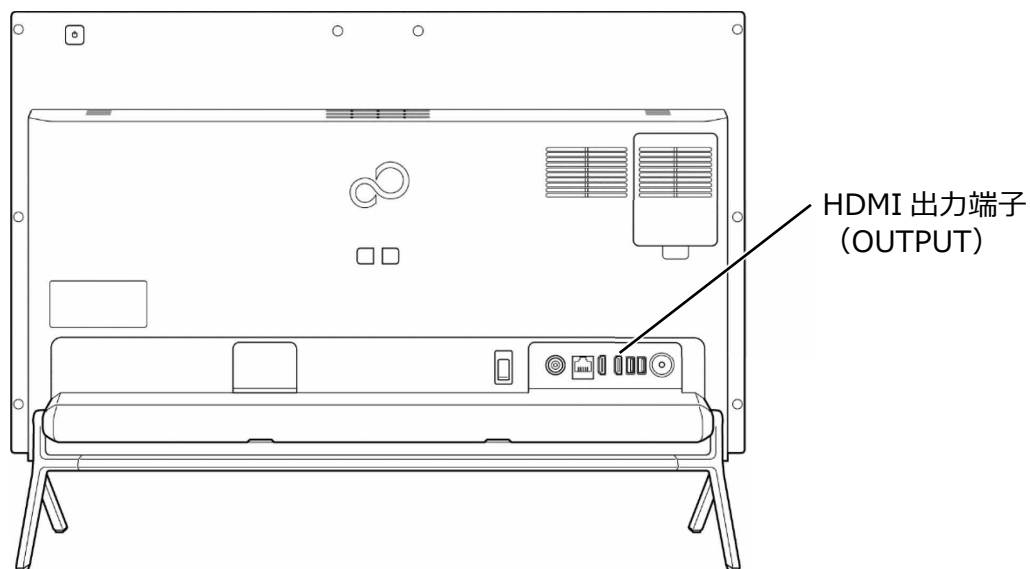
■ HDMI 出力端子をお使いになる場合の注意

このパソコンには、パソコンの画面を外部ディスプレイなどに出力することができる HDMI 出力端子を搭載しています。ご利用にあたり、次の点にご注意ください。

- 外部ディスプレイなど、映像機器との接続には、市販の HDMI ケーブルが必要です。接続する機器によっては、表示できないことがあります。
- 同時表示やマルチモニター表示、HDMI 出力端子接続時の出力方式などについては、「使いこなすために」 - 「ディスプレイ」をご覧ください。

■ HDMI 機器を接続する

1 HDMI 機器を、パソコン本体の HDMI 出力端子に接続します。



重要

- ▶ HDMI 入力端子と HDMI 出力端子は同時に使用できません。HDMI ケーブルは、どちらか一方にのみ接続してください。

HDMI 入力端子を使う

■ HDMI 入力端子をお使いになる場合の注意

このパソコンには、Windows を起動しなくても、接続したゲーム機や AV 機器の映像を楽しむことができる HDMI 入力端子を搭載しています。ご利用にあたり、次の点にご注意ください。

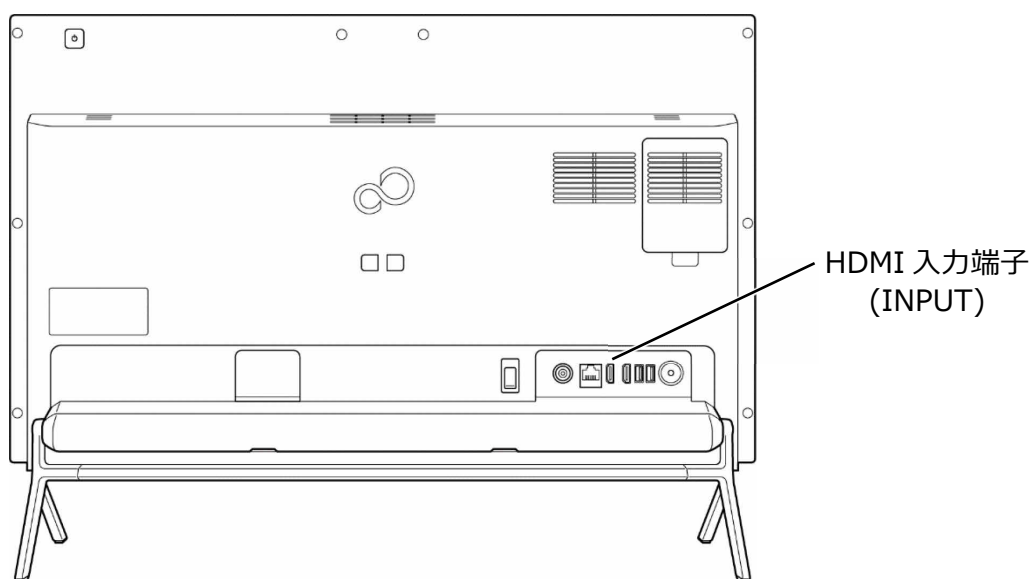
- 最大解像度は 1920×1080（FHD）です。それ以上高い解像度のデータをそのまま表示させることはできません。
- 映像機器との接続には、市販の HDMI ケーブルが必要です。接続する機器によっては、表示できないことがあります。
- DVD（PowerDVD）など、著作権保護技術により暗号化されているデジタル映像をパソコンで視聴中に HDMI 機器の画面に切り換えると、デジタル映像表示が中断されことがあります。HDMI 機器の画面に切り換える前に、あらかじめ「PowerDVD」を終了してください。
- HDMI 出力機器の映像信号が 1080i(1125i) または 480i(525i)のインターレースはサポートしていません。出力機器側で、1080p(1125p)、720p(750p)、480p(525p)のいずれかのプログレッシブに変更してお使いください。
- 市販の DVI-HDMI 変換ケーブルを使用した場合、映像信号のみが送られるため音声は出力されません。
- HDMI 入力時の音量や画面の明るさなどを変更する場合は、パソコン本体側面のボタンで操作してください。キーボードからは変更できません。

■ HDMI 機器を接続する

重要

- ▶ HDMI 入力端子と HDMI 出力端子は同時に使用できません。HDMI ケーブルは、どちらか一方にのみ接続してください。

1 HDMI 機器を、パソコン本体背面の HDMI 入力端子に接続します。



■ HDMI 機器の映像を画面に表示する

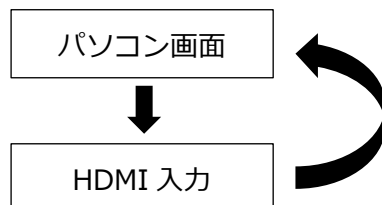
□ 切り換え方法

1 パソコン本体側面の外部入力ボタンを押します。

HDMI 入力端子に接続した機器の画面が表示されます。

画面が表示されるまで、1～2 秒かかります。

外部入力ボタンを押すたびに、次のように画面が切り替わります。



画面が切り替わると、画面右上に「HDMI」と表示されます。

HDMI 機器からの映像が入力されていない場合は、パソコン画面に切り換わります。

また、パソコン画面に切り換えたときにパソコンが起動していない場合も、真っ暗な状態になります。

Point

- ▶ HDMI 機器の画面に切り換えているときに次の操作をすると、パソコンの画面に切り換わります。
 - ・ パソコン本体の電源ボタンを押す
 - ・ キーボードのパソコン電源ボタンを押す

光学ドライブ

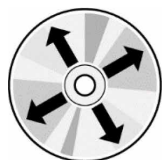
このパソコンでは、CD や DVD、Blu-ray Disc (Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ) などのディスクの再生や読み出し／書き込みを行うことができます。

著作物の録音や複製に関する注意

- 音楽や画像などの著作物は、著作権法で保護されています。録音・複製（データ形式の変換を含む）などは、お客様個人またはご家庭内で楽しむ目的でのみ、行うことができます。音楽や画像をネットワーク上で配信するなど、上記目的を超える場合は、著作権者の許諾が必要です。
- 著作権を保護されたディスクはコピーできません。
ディスクの種類によっては、著作権保護のため、コピープロテクトがかかっている場合があります。このパソコンでは、著作権保護として、デスクランブル機能および相互認証機能が用意されています。著作権を保護されたデータなどをコピーしても、再生できません。

ディスクをお使いになるうえでの注意

- ディスクの再生中や書き込み／書き換え中は、振動や衝撃を与えないでください。
- ケースから取り出すときやパソコンにセットするときなど、ディスクは両面とも触らないようにしてください。
- ディスクは両面ともラベルを貼らないでください。
- ディスクの表面にボールペンや鉛筆などの硬いもので字を書くと、ディスクに傷が付くおそれがあります。
- ディスクは両面とも「傷・指紋・汚れ・ほこり・液体（水やコーヒーなど）・油・塩分」が付着しないようにしてください。
- 汚れたり水滴が付いたりしたときは、メガネ拭きのような柔らかい布で、傷つけないように軽く拭き取ってください。ディスクを拭くときは、内から外へ向かって直線的、放射状に拭いてください。



内から外



円周方向

このとき、次の点に注意してください。

- ・ シリコンクロスは使用しないでください。
- ・ ヘアードライヤーなどで乾燥させたり、自然乾燥をさせたりしないでください。
- ・ ベンジン、シンナー、水、レコードスプレー、静電気防止剤などで拭かないでください。
- 使わないときは、ケースに入れて保管してください。

- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 高温・低温の場所に保管しないでください。
- スーパーマルチドライブをお使いの場合、アプリが Blu-ray Disc に対応していても、Blu-ray Disc はお使いになれません。

ディスクを再生するうえでの注意

- ディスクの再生直後、数秒間画面が正常に表示されないことがあります。
- デジタル放送を録画した DVD を初めて「PowerDVD」で再生するときは、「ユーザーアカウント制御」ウィンドウが表示されます。必ず「はい」をクリックしてください。
- ディスクによっては、正常に再生されない場合や、「PowerDVD」の一部の機能が使用できない場合があります。
- 再生するディスクのマニュアルも必ずご覧ください。
- 各ボタンを操作する間隔は、1 秒以上あけてください。
- 再生するディスクによっては、コマ落ちする場合があります。
- ディスクを再生する前に、他のアプリは終了させてください。

Point

- ▶ DTS で記録された DVD-VIDEO は、このパソコンでは音声再生ができません（スーパーマルチドライブ搭載機種のみ）。

■ 「PowerDVD」を更新する

このパソコンには、ディスクを再生するアプリ「PowerDVD」が用意されています。

「PowerDVD」は常に最新の状態に更新してお使いください。

「PowerDVD」を更新するには、サポートページ（<http://azby.fmworld.net/support/>）の「機種別サポート情報・ダウンロード」からアップデートプログラム（随時提供）をダウンロードして、インストールしてください。

インストール手順については、アップデートプログラムに添付されている「Readme.txt」をご覧ください。

■ AACス キーを更新する（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）

Blu-ray Disc には、著作権保護技術のキーが働いています。

AACス キーは常に最新の状態に更新してお使いください。

更新方法については、下記の URL をご覧ください。

<http://www.fmworld.net/aacs/>

ディスクに書き込み／書き換えをするうえでの注意

- ディスクに書き込み／書き換えを行うときは、30℃以上の環境を避けてください。ディスクの書き込み／書き換えが正常に行われないことがあります。
- 書き込み／書き換え中にディスク面に傷を検出した場合、書き込み／書き換えが中断されることがあります。
- ディスクへ正常に書き込み／書き換えができない場合は、書き込み／書き換え速度を落とすことで、書き込み／書き換えできる場合があります。
- 大音量で DVD を視聴したり、音楽を再生したりしながら書き込み／書き換えを行うと、振動により正常に行われないことがあります。ボリュームを下げることで、書き込み／書き換えできる場合があります。
- DVD プレーヤーで映像を見る目的で、DVD に書き込みをする場合、画像の解像度は 720 × 480 に設定することをお勧めします。
その他の解像度で作成されたファイルを DVD に保存すると、一部の DVD プレーヤーで再生できない場合があります。
- 「Power2Go」では DVD-RAM への書き込み／書き換えは行えません。

■ 書き込み／書き換えを行う前に

ディスクに、書き込み／書き換えを行う前に、次の操作をしてください。

- 他のアプリは終了させてください。
- ディスクに書き込み／書き換え中にスリープや休止状態にならないように、「電源オプション」ウィンドウで「コンピューターをスリープ状態にする」を、「適用しない」に設定してください。
設定の変更については、「使いこなすために」－「スリープ／休止状態」をご覧ください。
- ディスクに書き込み／書き換え中にディスプレイがスクリーンセーバーに移行しないように次の設定をしてください。
 1.  ▶  (設定) ▶ 「個人用設定」の順にクリックします。
 2. 「ロック画面」をクリックします。
 3. 「スクリーンセーバー」をクリックします。
 4. 「スクリーンセーバー」の  をクリックし、一覧から「(なし)」をクリックします。
 5. 「OK」をクリックします。
 6. × をクリックします。

■ 書き込み／書き換え中にはいけない操作

ディスクに書き込み／書き換え中は、次の操作を行わないでください。

書き込み／書き換えに失敗する場合や、時間がかかる場合があります。

- Windows を終了する
- パソコンの電源を切る
- パソコンをスリープや休止状態にする
- 電源ボタンを押す
- ディスク取り出しボタンを押す
- **Ctrl** と **Alt** を押しながら **Delete** を押す
- ディスクを操作するボタンを押す
- 他のアプリを起動または操作する
- LAN などによるデータ転送をする

■ 一度書き込み／書き換えしたディスクをお使いになるときは

一度書き込み／書き換えしたディスクをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

- パケットライト方式でデータが書き込まれたディスクは、このパソコンでは読み込むことはできません。
これらのディスクの読み出しや書き込みを行う方法については、ディスクを作成するときに使用したアプリのマニュアルをご覧ください。
- 一度フォーマットや書き込みをした後は、同じアプリを使って書き換え、追記を行ってください。
- DVD+RW や DVD-RW、CD-RW、BD-RE、BD-RE DL、BD-RE XL（BD-RE、BD-RE DL、BD-RE XL は Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）に保存したファイルは、そのまま編集や更新をすることはできません。編集や更新をする場合は、次の手順で操作してください。
 - 1.内蔵ストレージにファイルをコピーします。
 - 2.ファイルが読み取り専用になっていたら、「読み取り専用」の属性を外します。
「読み取り専用」の属性を外すには、対象のファイルを右クリックし、表示されるメニューから、「プロパティ」をクリックします。プロパティウィンドウで「全般」タブをクリックし、「読み取り専用」の ☒ をクリックして ☐ にし、「OK」をクリックします。
 - 3.ファイルの編集や更新をし、再度ディスクへ書き込みを行います。
- このパソコンで書き込みをしたディスクは、別のパソコンやアプリで利用できない場合があります。

使えるディスク／使えないディスク

■ 使えるディスク

このパソコンでお使いになることのできるディスクは、次のとおりです。



- ▶ お使いになるアプリによって使えるディスクは異なります。ディスクをお使いになるアプリのヘルプをご覧ください。

○：対応 ×：非対応

ディスクの種類	読み出し (再生)	書き込み	書き換え
CD-ROM、音楽 CD、ビデオ CD、フォト CD	○	×	×
CD-R	○	○	×
CD-RW	○	○[注 1]	○[注 1]
Super Audio CD	×	×	×
DVD-Audio	×	×	×
DVD-ROM、DVD-VIDEO	○[注 2]	×	×
DVD-R (4.7GB)	○	○	×
DVD-RW	○	○[注 1]	○[注 1]
DVD-R+DL (8.5GB)	○	○	×
DVD+R (4.7GB)	○	○	×
DVD+RW (4.7GB)	○	○[注 1]	○[注 1]
DVD+R DL (8.5GB)	○	○	×
DVD-RAM (2.5GB・5.2GB)	×	×	×
DVD-RAM (4.7GB・9.4GB)	○	○[注 3]	○[注 3]

Blu-ray Disc ドライブ搭載機種の場合は、次のディスクもお使いいただけます。

○：対応 ×：非対応

ディスクの種類	読み出し (再生)	書き込み	書き換え
BD-ROM	○[注 4]	×	×
BD-R SL (25GB)	○	○	×
BD-R DL (50GB)	○	○	×
BD-RE SL (25GB) [注 5]	○	○ [注 1][注 3]	○ [注 1][注 3]
BD-RE DL (50GB) [注 5]	○	○ [注 1][注 3]	○ [注 1][注 3]
BD-R LTH TYPE	○	○	×
BD-R XL (100GB)	○	○	×

ディスクの種類	読み出し (再生)	書き込み	書き換え
BD-RE XL (100GB)	○	○ [注 1][注 3]	○ [注 1][注 3]

注 1：次のディスクに書き込んだデータを削除するには、データをすべて消去する必要があります。

- ・ CD-RW、DVD-RW、DVD+RW に書き込んだデータ
- ・ BD-RE や BD-RE DL、BD-RE XL にライティングアプリで書き込んだデータ

注 2：DVD-VIDEO は、リージョン（地域）コードに [2] が含まれているか、もしくは [ALL] のものを再生できます。

注 3：購入した DVD-RAM や、Blu-ray Disc（BD-RE や BD-RE DL、BD-RE XL）を使い始めるには、フォーマットを行う必要があります。ディスクのフォーマットについては、「ディスクをフォーマットする」（→P.37）をご覧ください。

注 4：Blu-ray Disc は、リージョン（地域）コードに [A] が含まれているか、もしくは [FREE] のものを再生できます。

注 5：BD-RE Ver1.0 には対応しておりません。

■ 推奨ディスク

次のディスクの使用をお勧めします。

次の表に記載のないディスクをお使いになると、書き込み／書き換えが正常に行えない場合や、再生できない場合があります。

なお、それぞれのディスクの詳しい仕様については、各メーカーのホームページなどをご覧ください。

※ 次の表の内容は、2023 年 9 月現在のものです。

種類	メーカー	メーカー型名
CD-R	Verbatim (バーベイトム)	SR80SP10V1、SR80SP20V1
CD-RW	Verbatim (バーベイトム)	SW80QU5V1、SW80QM5V1、SW80QP5V1、 SW80EU5V1
DVD-R(SL)	Verbatim (バーベイトム)	DHR47JPP10、DHR47JP10V1
DVD-R(DL)	Verbatim (バーベイトム)	DHR85HP5V1、DHR85HP10V1、 DHR85HP10SV1
DVD-RW	Verbatim (バーベイトム)	DHW47Y10V1
DVD+R(DL)	Verbatim (バーベイトム)	DTR85HP5V1、DTR85HP10V1

※録画用として販売されているディスクでも、データの書き込みにお使いいただけます。

Blu-ray Disc ドライブ搭載機種の場合は、次のディスクもお使いいただけます。

種類	メーカー	メーカー型名
BD-R(SL) (25GB)	Verbatim (バーベイトム)	DBR25RMDP5V2
	パナソニック <生産終了>	LM-BR25LDH10、LM-BR25MD25、 LM-BR25LP5、LM-BR25LP10、 LM-BR25LP20、LM-BR25MP5、 LM-BR25MP10、LM-BR25MP20
BD-R(DL) (50GB)	Verbatim (バーベイトム)	DBR50RMDP5V2、DBR50RPP10、 VBR260YP5V1、VBR260YP10V1、 VBR260YP10SV2 DBR50RMDP3D1<生産終了>
	パナソニック <生産終了>	LM-BR50LDH5、LM-BR50MDH、LM-BR50LP5、 LM-BR50LP10、LM-BR50MP
BD-R XL(TL) (100GB)	Verbatim (バーベイトム)	VBR520YMDP1V1、VBR520YP1D4、 VBR520YMDP1V1、VBR520YP5V2、 DBR100YMDP3D1<生産終了> DBR100YMDP5V1 (M-DISC) <生産終了>
	パナソニック <生産終了>	LM-BE25DH5A、LM-BE25P5、LM-BE25P10、 LM-BE25P20
BD-RE(SL) (25GB)	Verbatim (バーベイトム)	VBE260NP3V1、VBE260NP5V1、 VBE260NP10V1、VBE260NP10SV1
	パナソニック <生産終了>	LM-BE50DHA、LM-BE50P、LM-BE50P5、 LM-BE50P10、
BD-RE XL(TL) (100GB)	ソニー	BNE3VEPJ2、3BNE3VEPS2、5BNE3VEPS2

※録画用として販売されているディスクでも、データの書き込みにお使いいただけます。

☐ 録画用

種類	メーカー	メーカー型名
DVD-R(SL)	三菱ケミカルメディア	VHR12JPP10
DVD-R(DL)	三菱ケミカルメディア	VHR21HDSP10
DVD-RW	Verbatim (バーベイトム)	VHW12NP10V1

■ 使えないディスク

次のディスクはお使いにならないでください。

- 円形以外の異形ディスク（星型やカード型などの変形ディスク）
このパソコンは円形のディスクのみお使いになれます。
円形以外の異形ディスクをお使いになると故障する場合があります。
異形ディスクをお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 規格外の厚さの DVD 媒体
DVD 規格では媒体の厚さを 1.14mm～1.5mm と規定しています。
記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
規格外の DVD 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 規格外の厚さの Blu-ray 媒体（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）
規格では媒体の厚さを 1.15mm～1.3mm と規定しています。
記録面が薄い媒体など、一部でもこの範囲外の厚さになっている媒体をお使いになると故障する場合があります。
規格外の Blu-ray 媒体をお使いになり故障した場合は保証の対象外となります。
- 中心に穴の空いていないディスク
- 傷またはヒビの入ったディスク、ゆがんだディスクおよび重心の偏ったディスクお使いになると、ドライブ内部で破損する場合がありますので、お使いにならないでください。
- カートリッジに入れた状態で使用するタイプの DVD-RAM（Type1）
DVD-RAM は、カートリッジなしタイプまたはカートリッジからディスクが取り出せるタイプをお使いください。なお、カートリッジに入れた状態で使用するタイプの DVD-RAM を、カートリッジから無理に取り出してお使いにならないでください。
- BD-RE Ver1.0 規格の Blu-ray Disc（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）
- 市販のクリーニングディスク、レンズクリーナー
お手入れのときにお使いになると、逆にゴミを集めてしまい、光学ドライブのレンズが汚れてしまう場合がありますので、お使いにならないでください。

ディスクをパソコンにセットする／取り出す

ディスクのセット／取り出しは、パソコンの電源が入っている状態のときのみ可能です。



ディスクをセットまたは取り出す場合は、トレーに指などを入れないでください。けがの原因となることがあります。



落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源ケーブルをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。落雷による感電、火災の原因となります。けがの原因となることがあります。



トレーに装着されているレンズに触れないでください。ディスクの再生や、ディスクへの書き込み／書き換えが正しく行えなくなる原因になります。

■ ディスクをセットする

重要

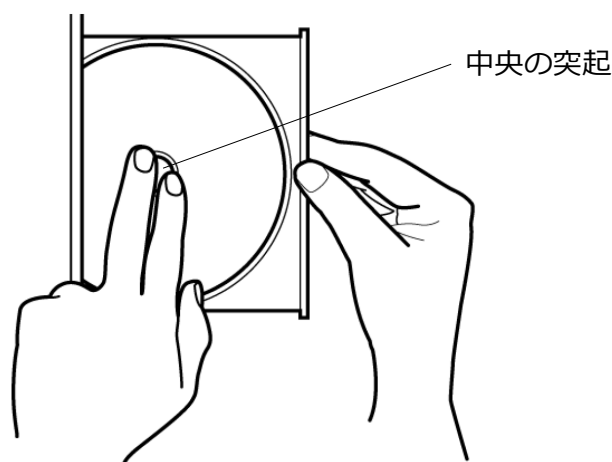
- ▶ ディスクをセットするときの注意
ディスク読み取りヘッドが移動する音がすることがあります。
- ▶ ディスク使用時の注意
ディスクはデータの読み出しをするときに高速回転するため、使用時には振動や風切音があります。
- ▶ トレーを引き出すときの注意
トレーは勢いよく引っ張り出さないでください。また、最後まで引き出してください。

1 トレーを開きます。

- ① パソコン本体のディスク取り出しボタンを押すと、トレーが少し飛び出します。
- ② トレーの中央を持って静かに引き出します。ディスクアクセスランプ点灯中でも操作が可能です。

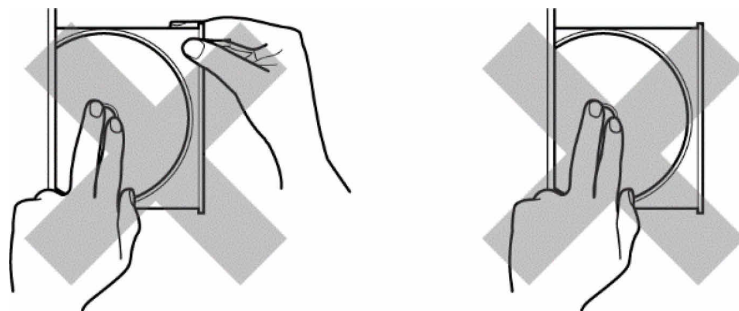
2 トレー先端の中央部をつまんで支えながら、ディスクをセットします。

ディスクのレーベル面を手前（両面タイプの DVD-RAM の場合は、データの読み取り／書き込みを行う面を下）にして、トレー中央の突起にディスクの穴を合わせ、「パチン」と音がするまでしっかりとセットします。



重要

- ▶ ディスクは「パチン」と音がするまでしっかりとセットしてください。このとき、パソコンが転倒しないよう、トレーを手で押さえてください。
ディスクの穴を突起にきちんとはめこまないと、ディスクがドライブ内部で外れて、読み取りができなかったり、取り出せなくなったりすることがあります。また、トレーやドライブ内部およびディスクを破損する原因となります。
- ▶ ディスクをトレーの金属部に押し付けないでください。金属部と接触すると、ディスクにキズがつく原因となります。
- ▶ 次のような取り付け方は行わないでください。
 - ・ 上記以外の箇所を支えて取り付けると、歪みや変形により正常に動作しなくなる場合があります。
 - ・ トレーを支えない状態で取り付けると、破損の原因になります。



3 カチッと音がするまで、トレーを静かに押し込みます。

ディスクをセットしてからパソコンで使えるようになるまで、約 30 秒かかります。

「エクスプローラー」画面の光学ドライブのアイコンがディスクのアイコンに変わったことを確認してから次の操作を行ってください。

ディスクが認識される前に次の操作をすると、ディスクが自動で取り出される場合があります。

■ ディスクを取り出す

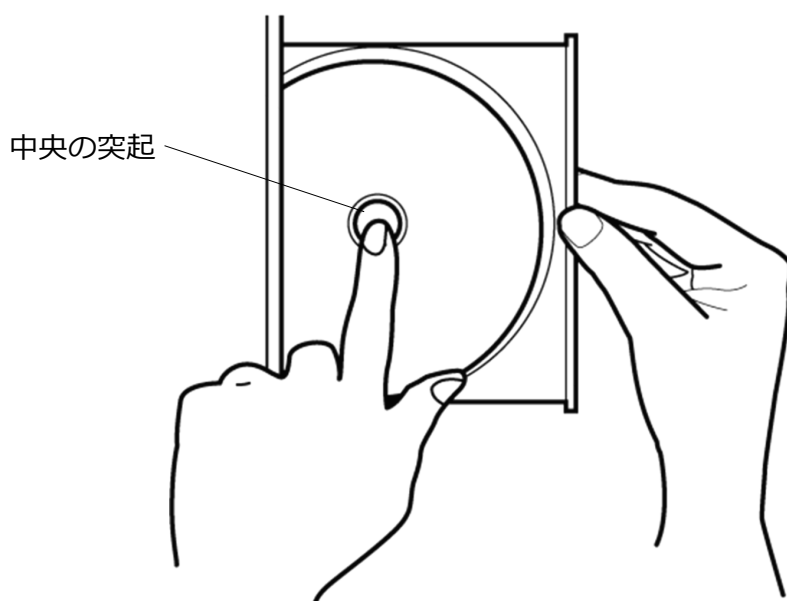
1 ディスクを利用しているアプリがあれば終了します。また、ディスク内のファイルを開いている場合はファイルを閉じてください。

2 トレーを出します。

- ① パソコン本体のディスク取り出しボタンを押すと、トレーが少し飛び出します。
- ② トレーを静かに引き出します。

3 トレー先端の中央部をつまんで支えながら、ディスクを取り出します。

トレー中央の突起を押さえながら、ディスクがパソコン本体にぶつからないように、ディスクのふちを持ち上げてください。



4 カチッと音がするまで、トレーを静かに押し込みます。

トレーを出したまま放置しないでください。

光学ドライブ内部にほこりが入り、故障の原因となります。

ディスクが取り出せなくなった場合は、「富士通アドバイザー」の「トラブル解決」から「光学ドライブのトラブル」をご覧ください。

ディスクをフォーマットする

次のディスクはお使いになる前にこのパソコンで読み書きできるようにするフォーマット（初期化）を行う必要があります。9.4GB の両面タイプの DVD-RAM については、片面ごとにフォーマットしてください。

- DVD-RAM
- BD-RE、BD-RE DL、BD-RE XL（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）

ここでは、特定のアプリを使用せずに、「エクスプローラー」から DVD-RAM などに直接データを書き込んで使用する場合のフォーマットの方法を説明します。

特定のアプリを使用して、データの書き込み、書き換えをする場合は、お使いになるアプリのマニュアルやヘルプをご覧ください。フォーマット形式を選択してください。

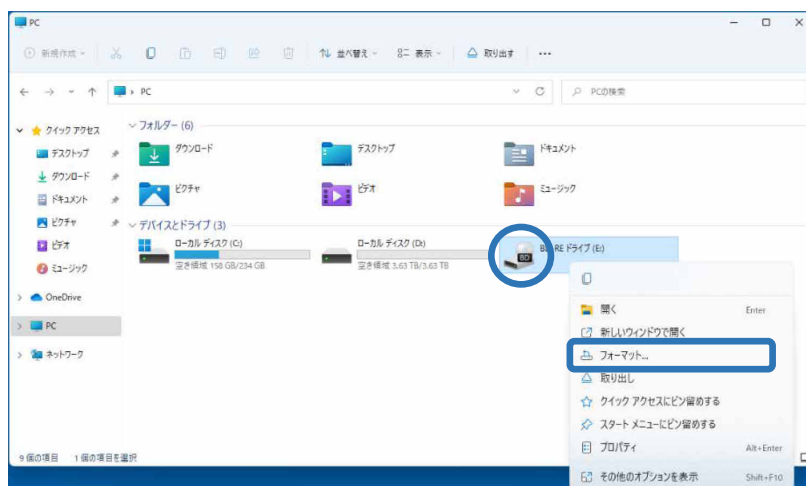


注意



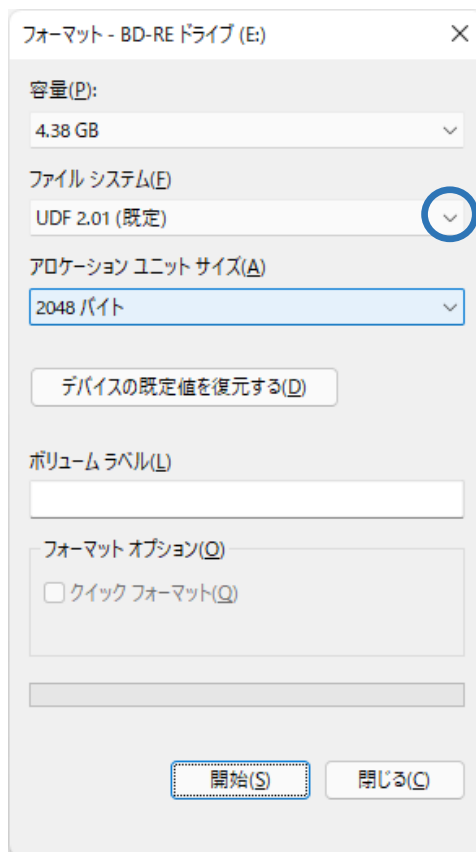
DVD-RAM ディスクや Blu-ray Disc をセットまたは取り出すときに、トレイに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

- 1 フォーマットするディスクをセットします。
- 2  ▶ 「すべてのアプリ」▶ 「エクスプローラー」の順にクリックします。
- 3 表示されたウィンドウの左側の「PC」をクリックします。
- 4 ディスクのアイコンを右クリックし、表示されるメニューから、「フォーマット」をクリックします。



（これ以降の画面は機種や状況により異なります）

5 「ファイルシステム」の▼をクリックしてフォーマット種別を選びます。



- **DVD-RAM の場合**

「UDF 2.01（既定）」を選びます。

- **Blu-ray Disc の場合（Blu-ray Disc ドライブ搭載機種のみ）**

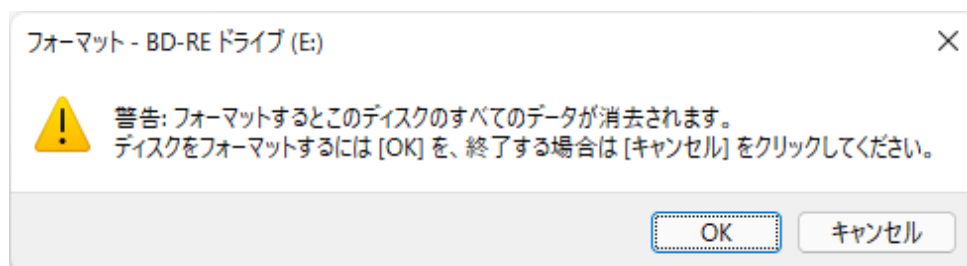
「UDF 2.50」を選びます。

Point

- ▶ 「ボリュームラベル」に入力した文字列がディスクの名前になります。ディスクに好きな名前を付けることができます。
- ▶ 「クイックフォーマット」の ☒ を ☐ にすると、フォーマットに時間がかかる場合があります。

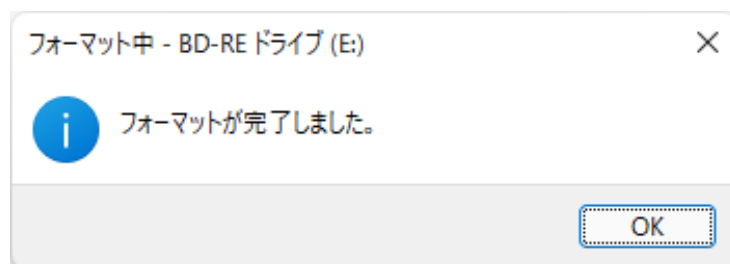
6 「開始」をクリックします。

7 フォーマットを確認するメッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



フォーマットが始まります。終了するまでしばらく待ちます。

- 8** フォーマット完了のメッセージが表示されたら、「OK」をクリックします。



- 9** 「閉じる」をクリックします。

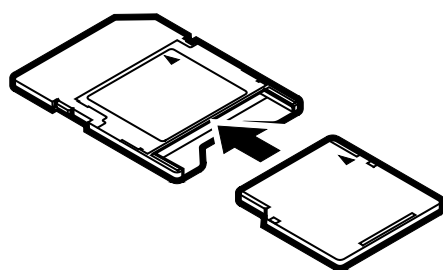
メモリーカード

ダイレクト・メモリースロットは、デジタルカメラなどに使われているメモリーカードに直接データを読み書きするためのスロットです。

お使いになるうえでの注意

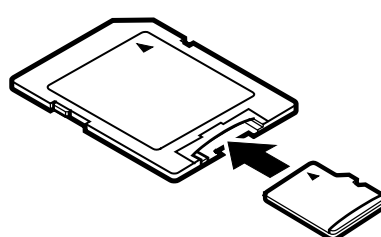
- メモリーカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリーカードを取り扱う前は、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。
- 次のメモリーカードをお使いになる場合はアダプターが必要です。
 - ・ miniSD カード、microSD カード、microSDHC カード、microSDXC カード必ずアダプターに差し込んでからお使いください。
そのままダイレクト・メモリースロットに挿入すると、メモリーカードが取り出せなくなります。
また、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアダプターごとに取り出してください。アダプターだけをダイレクト・メモリースロットに残すと、故障の原因となります。

miniSD カードアダプター



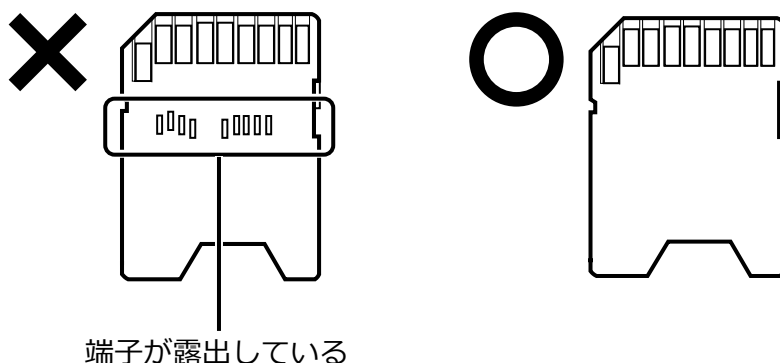
miniSD カード

microSD カードアダプター



microSD カード
microSDHC カード
microSDXC カード

- 端子が露出している miniSD カードアダプターは使用できません。
ダイレクト・メモリスロット内部の端子が接触し、故障の原因となります。
miniSD カードのアダプターは、裏面中央部から端子が露出していない製品をご利用ください。



UHS-II 対応の SDXC カードも裏面中央部から端子が露出していますが、このカードはそのままご利用ください。

- Windows の ReadyBoost には対応していません。
- メモリーカードや記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合は、お使いの機器でフォーマットしてください。このパソコンでフォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。デジタルカメラなどでのフォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

使えるメモリーカード

ダイレクト・メモリスロットが対応しているメモリーカードの種類は次のとおりです。
ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

 [注]	・ SD メモリーカード ・ SDHC カード ・ SDXC カード ・ miniSD カード ・ microSD カード ・ microSDHC カード ・ microSDXC カード
--	---

注：・ マルチメディアカード、セキュアマルチメディアカードには対応していません。

- ・ SDIO カードには対応していません。
- ・ 著作権保護機能（CPRM [シーピーアールエム]）に対応しています。

メモリーカードを差し込む／取り出す

⚠ 注意



指のケガに
注意

メモリーカードを差し込む場合は、ダイレクト・メモリースロットに指などを入れないでください。

けがの原因となることがあります。



一般指示

メモリーカードは小さいお子様の手の届かない場所に置いてください。

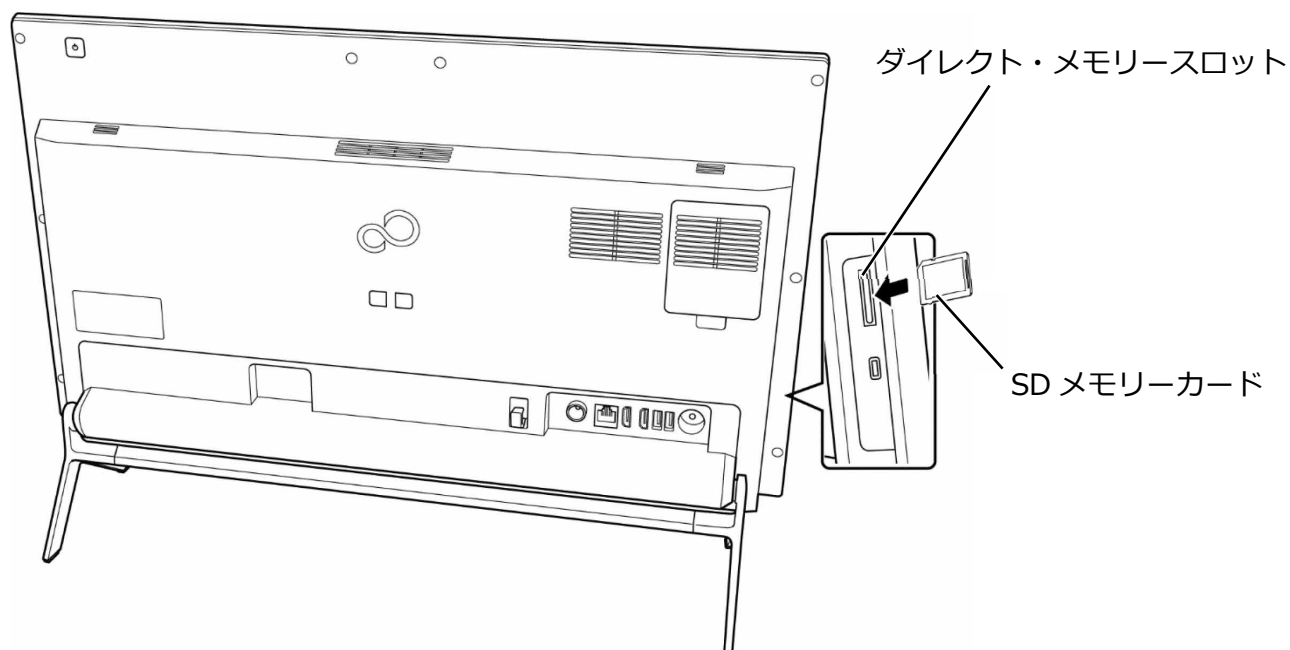
お子様が口に入れたり、誤って飲み込んだりすると、けがや窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

■ メモリーカードを差し込む

1 メモリーカードをダイレクト・メモリースロットに差し込みます。

アダプターが必要なメモリーカードは、必ずアダプターに差し込んだ状態でセットしてください。

複数のメモリーカードを同時に使用することはできません。



重要

- ▶ 書き込み禁止の状態のメモリーカードにファイルの書き込みや削除を行った場合、エラーメッセージの表示に時間がかかることや、メモリーカードの内容の一部が正しく表示されないことがあります。その場合は、書き込み禁止の状態を解除し、差し込み直してください。

■ メモリーカードを取り出す

1 メモリーカードにアクセスしていないことを確認します。

ファイルのコピー、移動、削除などが終了していることを確認してください。

2 画面右下の をクリックし、表示されたアイコン（ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す）をクリックします。

アイコンは、 などですが、お使いの状況により異なります。また、メモリーカードによっては、アイコン（ハードウェアを安全に取り外してメディアを取り出す）が表示されないものもあります。アイコンが表示されない場合には、メモリーカードのマニュアルをご覧ください。

3 「nnn の取り出し」をクリックします。

nnn にはお使いのメモリーカードの名称が表示されます。

4 「nnn はコンピューターから安全に取り外すことができます。」というメッセージが表示されたら、メモリーカードをパソコンから取り出します。

メモリーカードを一度押し、少し出てきたメモリーカードを引き抜きます。

重要

- ▶ メモリーカードを引き抜くときは、ひねったり斜めに引いたりして、メモリーカードに無理な力がかからないようにしてください。

周辺機器の取り扱い

周辺機器とは、USB マウス、プリンター、デジタルカメラ、USB メモリ、携帯オーディオプレーヤーなどのパソコン本体に接続する装置の総称です。



プラグを抜く

周辺機器のなかには、取り付け／取り外しを行うときに、パソコンや周辺機器の電源を切り、AC アダプタや電源ケーブルをコンセントから抜いた状態で行わなければならない場合があります。必ず添付のマニュアルでご確認ください。感電の原因となります。



一般指示

周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコンおよび周辺機器が故障する原因となります。

周辺機器の取り扱い上の注意

■ 一般的な注意

- **周辺機器の接続は、取り付ける周辺機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく行ってください**
- **弊社純正品をお使いください**
弊社純正の周辺機器については、販売店にお問い合わせいただくか、富士通ショッピングサイト「WEBMART」(<https://fmv.fccl.fujitsu.com/shop/>) をご覧ください。
他社製品につきましては、このパソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。
- **周辺機器に添付のドライバーがお使いの Windows に対応しているか確認してください**
お使いになる周辺機器のドライバーがお使いの Windows に対応していないと、その周辺機器はお使いになれません。必ずお使いの Windows に対応したものをご用意ください。
- **一度に取り付ける周辺機器は 1 つだけにしてください**
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバーのインストールなどが正常に行われないうおそれがあります。1 つの周辺機器の取り付けと動作確認が完了してから、別の周辺機器を取り付けてください。
- **コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください**
- **周辺機器の電源について**
周辺機器の電源はパソコン本体の電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、パソコン本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。

- **マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子への接続について**

次のような場合には、あらかじめ音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホンは使用しないでください。雑音が発生する場合があります。

- ・ パソコン本体の電源を入れるとき、切るとき
- ・ マイク・ラインイン・ヘッドホン・ラインアウト・ヘッドセット兼用端子にケーブルを接続するとき

■ パソコン本体内部に取り付ける場合の注意

- **パソコンおよび接続されている機器の電源を切ってください**

パソコンの電源を切った状態でも、パソコン本体内部には電流が流れています。安全のため、マニュアル内に電源プラグを抜くように指示がある場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

パソコン本体の電源の切り方については、「電源の入れ方／切り方」（→P.2）をご覧ください。

- **電源を切った直後は作業をしないでください**

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後 10 分ほど待ってから作業を始めてください。

- **内部のケーブル類や装置の扱いに注意してください**

傷を付けたり、加工したりしないでください。また、ねじったり、極端に曲げたりしないでください。

- **柔らかい布の上などで作業してください**

固いものの上に直接置いて作業すると、パソコン本体に傷が付くおそれがあります。

- **静電気に注意してください**

内蔵周辺機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体にたまった静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れるなどして静電気を放電してください。

- **基板表面やハンダ付けの部分、コネクタ部分には手を触れないでください**

金具の部分や、基板のふちを持つようにしてください。

メモリ

メモリの組み合わせを確認する

■ ご購入時のメモリの組み合わせ

このパソコンは、次の組み合わせでメモリが搭載されています。

お使いの機種	総容量	メモリスロット	
		1	2
FH77/H3	16GB	8GB	8GB
FH60/H3	8GB	4GB	4GB
WF1/H3、WFB/H3 (32GB を選択)	32GB	16GB	16GB
WF1/H3、WFB/H3 (16GB を選択)	16GB	8GB	8GB
WF1/H3、WFB/H3 (8GB を選択)	8GB	4GB	4GB
WF1/H3、WFB/H3 (4GB を選択)	4GB	4GB	—

■ メモリの組み合わせ

お使いの機種によっては、メモリ容量を増やして、パソコンの処理能力などを上げることができます。メモリを増設または交換する場合は、必ず次の表のように組み合わせてください。

この表以外の組み合わせにすると、パソコンが正常に動作しないことがあります。

総容量	メモリスロット	
	1	2
32GB	16GB	16GB
16GB	8GB	8GB
8GB	4GB	4GB
4GB	4GB	—

メモリの取り扱い上の注意

- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となります。
- メモリの増設や交換時に、パソコン本体内部にパソコンの部品やネジを落としたりしないように注意してください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いて、取り付け直してください。

警告



プラグを抜く

メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコンの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後に行ってください。また、周辺機器を取り外してください。この手順を守らずに作業を行うと、感電・火災または故障の原因となります。



一般指示

取り外したネジなどの部品は、小さなお子様の手の届かない場所に置いてください。誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

注意



高温注意

パソコンの内部には、高温になる部分があります。

メモリの取り付け／取り外しを行うときは、パソコンの電源を切って、しばらくしてから行ってください。やけどの原因となります。



一般禁止

メモリの取り付け／取り外しを行うときは、指定された場所以外のネジは外さないでください。

指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。



接触禁止

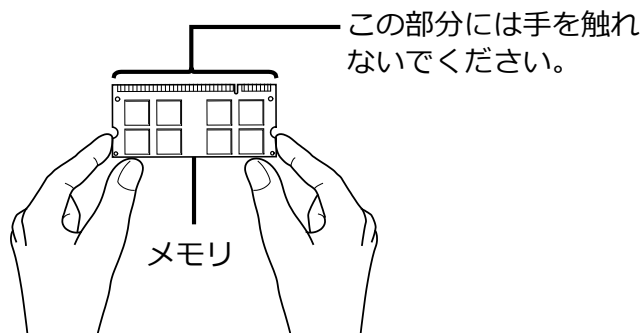
基板表面上の突起物には手を触れないでください。

けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

重要

- ▶ メモリを取り扱う前に、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れて、静電気を放電してください。メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。
- ▶ メモリを取り付けるときは、メモリの差し込み方向をお確かめのうえ、確実に差し込んでください。誤ってメモリを逆方向に差したり、差し込みが不完全だったりすると、故障の原因となることがあります。
- ▶ メモリは何度も抜き差ししないでください。
- ▶ メモリの表面の端子や IC 部分に触れたり押したりしないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。

- ▶ メモリは下図のようにふちを持ち、金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。



必要なものを用意する

■ メモリ

このパソコンに取り付けられるメモリについては、富士通ショッピングサイト「WEB MART」の「周辺機器」(<https://fmv.fccl.fujitsu.com/shop/>) をご覧になるか、ご購入元にお問い合わせください。

■ プラスドライバー（ドライバーサイズ：1 番）

ネジのサイズに合ったものをお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。

メモリの取り付け／取り外し

電源を切って作業しますので、この内容を印刷しておくことをお勧めします。

1 パソコン本体および接続されている機器の電源を切ります（→P.7）。

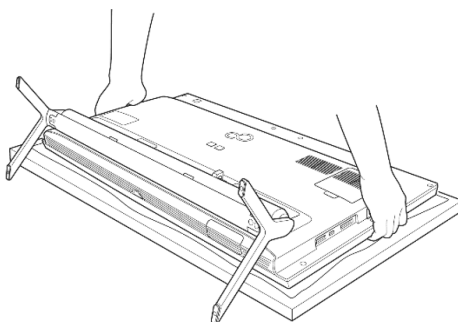
2 電源プラグをコンセントから抜きます。

電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後、10 分ほど待ってください。

3 パソコン本体に接続されている機器をすべて取り外します。

4 パソコン本体の背面が上になるように、パソコン本体を横にします。

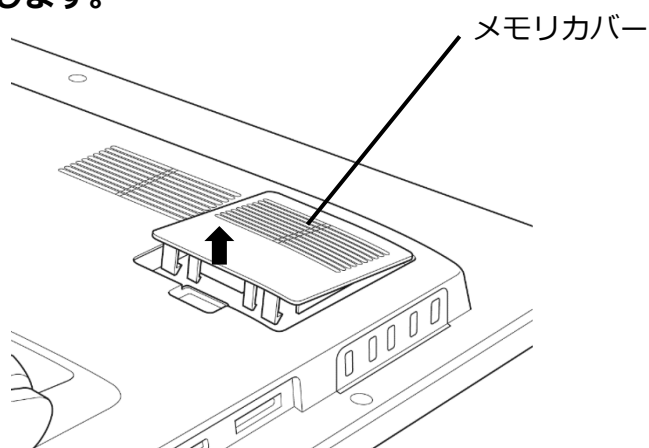
スタンドの前方と床面が接触しますので、厚手の柔らかい布を敷いた平坦な台の上で作業してください。特に、液晶ディスプレイに突起物があたらないように充分ご注意ください。また、液晶ディスプレイをつかんだり、指で触れたりしないでください。



重要

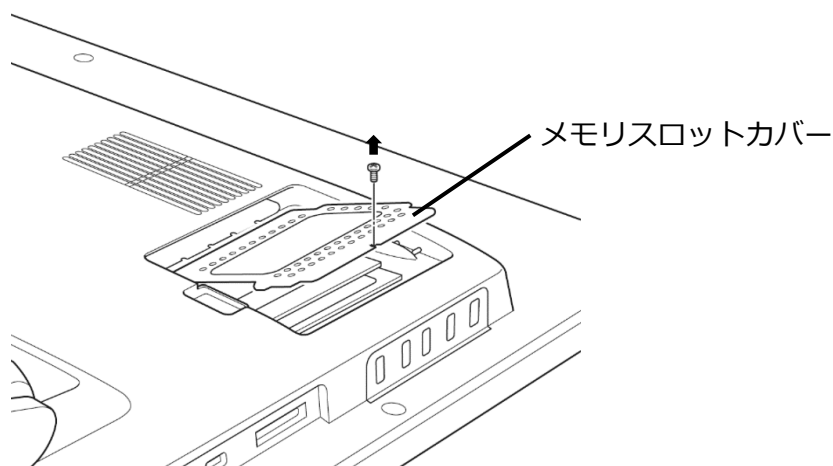
- ▶ パソコン本体は重量があります。パソコン本体を横にするときは、衝撃を与えたり、落下させたりしないよう、充分ご注意ください。

5 メモリカバーを取り外します。



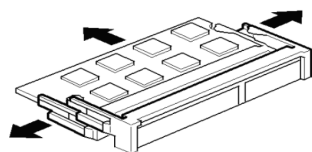
6 メモリスロットカバーを取り外します。

メモリスロットカバーのネジ（1ヶ所）を外し、メモリスロットカバーを取り外してください。



7 メモリを交換する場合は、パソコンに取り付けられているメモリを取り外します。

メモリを押さえている両側のツメを左右に開くと、メモリが少し斜めに持ち上がります。両手でメモリのふちを持って斜め上の方に引っ張り、メモリスロットから取り外します。

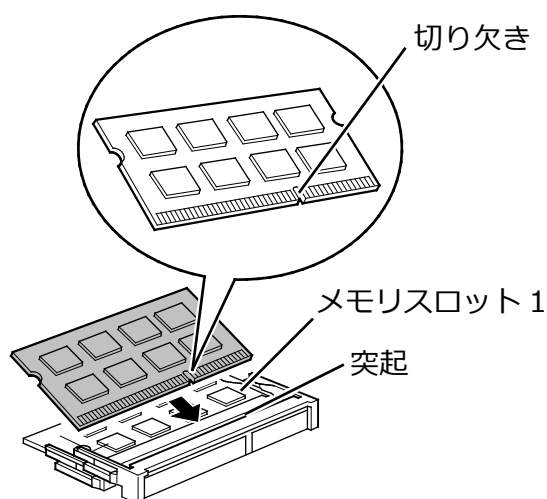


重要

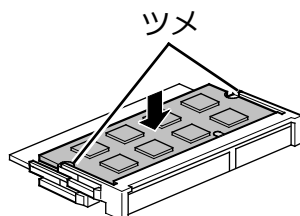
- ▶ メモリが2枚ある場合で下段にあるメモリスロット1のメモリを交換するときは、上段にあるメモリスロット2のメモリを先に取り外してください。

8 新しいメモリをメモリスロットに取り付けます。

両手でメモリのふちを持って、メモリの欠けている部分と、メモリスロットの突起が一致するように、斜め上からしっかりと差し込んでください。メモリを2枚取り付ける場合は、下段のメモリスロット1から先に取り付けてください。



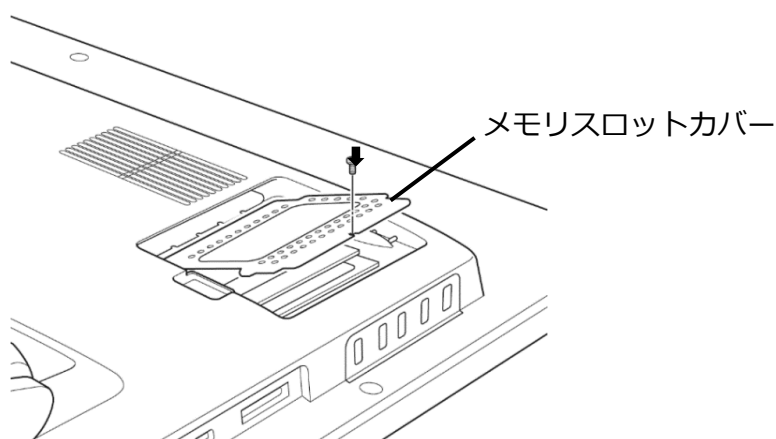
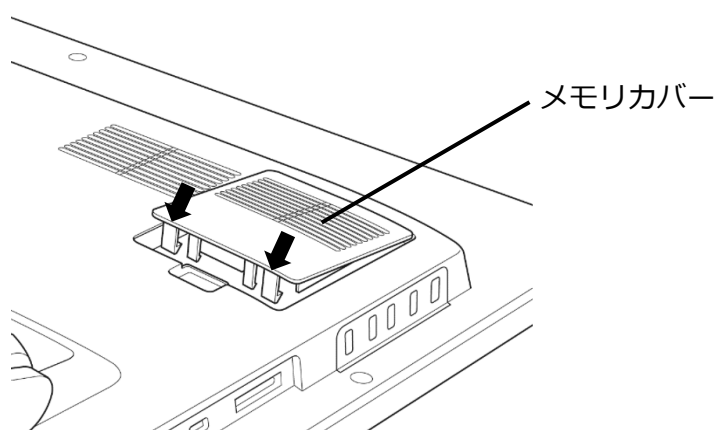
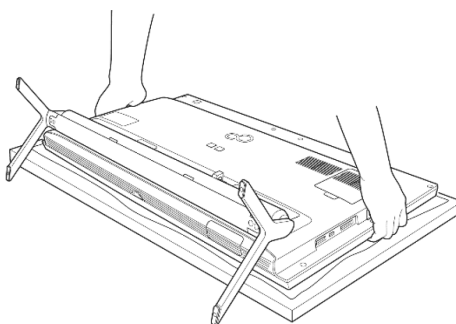
9 「パチン」と音がするまで下に倒します。



メモリを押さえている両側のツメが、きちんとはまったことを確認してください。

10 メモリスロットカバーを取り付けます。

メモリスロットカバーを取り付け、ネジ（1ヶ所）で固定します。ネジは固く締めすぎないようにしてください。

**11** メモリカバーを取り付けます。**12** パソコン本体をゆっくり立てます。**重要**

- ▶ パソコン本体は重量があります。パソコン本体を立てるときは、衝撃を与えたり、落下させたりしないよう、充分ご注意ください。

13 パソコン本体に接続されていた機器をすべて取り付けます。**14** パソコン本体および接続されている機器の電源プラグをコンセントに差し込みます。

次に、メモリが正しく取り付けられたか確認しましょう。（→P.52）

メモリ容量を確認する

1 パソコンの電源を入れます。

メモリが正しく取り付けられていないと、画面に何も表示されなかったり、メッセージが表示され、Windows が起動しなかったりする場合があります。

その場合は、電源ボタンを 10 秒以上押してパソコンの電源を切り、電源プラグを抜いたあと、メモリを取り付け直してください。

2 (設定) ▶ 「システム」▶ 「バージョン情報」の順にクリックします。

3 「実装 RAM」欄に表示されたメモリ容量を確認します。



(画面は Windows のバージョンにより異なります)

Point

- ▶ メモリ容量の数値が正しくない場合は、メモリがきちんと取り付けられているかを確認してください。

4 ウィンドウの右上にある をクリックして、ウィンドウを閉じます。

お手入れ

このパソコンを快適にお使いいただくための、日ごろのお手入れについて説明します。



警告



プラグを抜く

感電・火災の原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。

- パソコン本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- プリンターなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。



一般禁止

清掃するときは、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。故障・火災の原因となります。

パソコン本体、キーボードやマウスのお手入れ

- パソコン本体やマウス、キーボードなどの汚れを取る場合
 - ・ アセトン、シンナー、ベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきん、除光液、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）は絶対に使わないでください。
 - ・ アルコール成分を含んだ市販のクリーナーは使わないでください。
 - ・ 爪や指輪などで傷を付けないように注意してください。
 - ・ OA クリーニング用のクロスや不織布などの乾いた柔らかい布を使って軽く拭き取ってください。
 - ・ 汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を固く絞って拭き取り、中性洗剤を使用した場合は、水に浸した布で拭き取ってください。また、拭き取るときは、パソコン本体やマウスに水が入らないよう十分に注意してください。
 - キーボードのキーとキーの間のほこりを取る場合
 - ・ ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
 - ・ ほこりなどを取る場合は、柔らかいブラシなどを使って軽くほこりを取り除いてください。そのとき、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。
 - USB マウス添付機種の場合、マウスのお手入れのときは、マウスを取り外してください。
 - ワイヤレスマウス、ワイヤレスキーボードのお手入れを行うときは、あらかじめ乾電池や充電電池を取り出してください。
 - パソコン本体内部や通風孔、フット（設置台）について
 - ・ ほこりがたまらないように、定期的に清掃してください。
 - ・ 掃除機を使ってほこりを吸い取ってください。
- 詳しくは「通風孔のお手入れ」（→P.54）をご覧ください。

液晶ディスプレイのお手入れ

- OA クリーニング用のクロスや不織布など、乾いた柔らかい布を使って軽く拭き取ってください。水や中性洗剤を使用して拭かないでください。
- スプレータイプのクリーナーを液晶ディスプレイに直接吹き付けしないでください。垂れた液体が液晶下部より内部に侵入し、故障の原因となります。
- 市販のウェットティッシュ、クリーナー、除光液、化学ぞうきんを使うと、成分によっては、画面の表面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは、使わないでください。
 - ・ アルカリ性成分を含んだもの
 - ・ 界面活性剤を含んだもの
 - ・ アルコール成分を含んだもの
 - ・ アセトン、シンナー、ベンジンなどの揮発性の強いもの
 - ・ 研磨剤を含むもの
- パソコン本体や液晶ディスプレイの背面を手で支えてください。パソコン本体や液晶ディスプレイが倒れるおそれがあります。
- 爪や指輪などで傷を付けないように注意してください。
- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。破損するおそれがあります。

光学ドライブのお手入れ

市販のクリーニングディスクやレンズクリーナーを使うと、逆にゴミを集めてしまい、光学ドライブのレンズが汚れてしまう場合があります。故障の原因になりますので絶対に使わないでください。

うまく読み取れない場合には、ディスクの指紋、ほこりなどの汚れを拭き取ることで改善されることがあります。拭き取り方法はディスクの種類により異なります。詳しくはディスクの説明書／レーベルなどをご覧ください。

通風孔のお手入れ

パソコン本体の通風孔にほこりがたまると、故障の原因となります。

ほこりの堆積量は、お客様の環境によって異なります。次の清掃方法に従って、1 ヶ月に 1 度程度掃除してください。

■ 必要なものを用意する

- 掃除機

■ お手入れをするうえでの注意事項

- 十分に換気してください。
清掃時には、ほこりなどを口や鼻から吸い込まないように、窓を開けたり、換気扇を回したりするなどして、十分に換気してください。

- 洗剤は使用しないでください。
- エアダスターなどの清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。
- 清掃時に破損した場合、保証期間にかかわらず修理は有償となります。取り扱いについては、充分ご注意ください。
- 静電気を放電してください。
パソコン本体内部は、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、掃除機の吸引口や人体にたまった静電気によって破壊される場合があります。
パソコン本体内部のお手入れをする前に、一度アルミサッシやドアノブなどの金属に手を触れたり、掃除機の吸引口先端に触れさせたりして、静電気を放電してください。
- 衝撃や振動を与えないでください。
- 操作に必要な部分を押したり、必要以上の力を加えたりしないでください。

■ 清掃方法

電源を切って作業しますので、この内容を印刷してことをお勧めします。

1 パソコン本体および接続されている周辺機器の電源を切ります（→ P.7）。

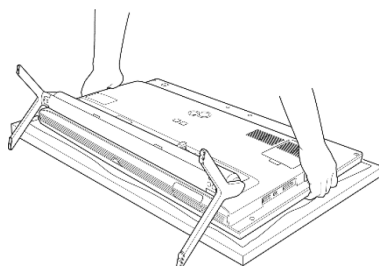
2 電源プラグをコンセントから抜きます。

電源を切った直後は、パソコン本体内部が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いた後 10 分ほど待ってください。

3 パソコン本体に接続されている機器をすべて取り外します。

4 パソコン本体の背面が上になるように、パソコン本体を横にします。

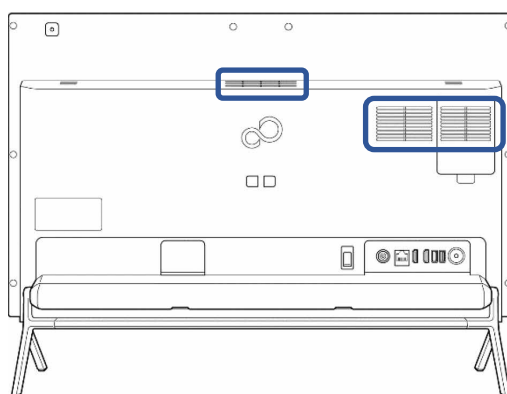
スタンドの前方と床面が接触しますので、厚手の柔らかい布を敷いた平坦な台の上で作業してください。特に、液晶ディスプレイに突起物があたらないようにしてください。



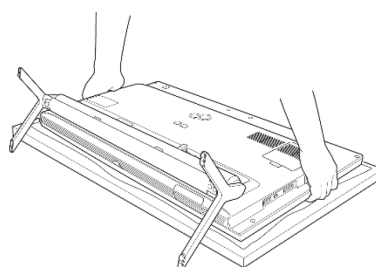
重要

- ▶ パソコン本体は重量があります。
パソコン本体を横にするときは、衝撃を与えたり、落下させたりしないよう充分ご注意ください。

5 掃除機の吸引口にノズルを取り付け、通風孔のほこりを直接吸い取ります。



6 パソコン本体をゆっくり立てます。



重要

- ▶ パソコン本体は重量があります。パソコン本体を立てるときは、衝撃を与えたり、落下させたりしないよう充分ご注意ください。

7 パソコン本体に接続されていた機器をすべて取り付けます。

8 パソコン本体および接続されている機器の電源プラグを、コンセントに差し込みます。